

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。めざせ、均等待遇。なくその差別！ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！

坂の街での配達…

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙 「みらい」
NO. 3762
17年6月13日(火)
・Fax 095-828-1953

おはようございます。今年もまた暑い季節になって参りました。この季節になると、斜面地が多い長崎特有の登り坂・長い階段を郵便物の入ったカバンを担いでの徒歩での配達も、一段と過酷なものとなります。

郵政ユニオンの全国大会などに参加した時など、他県の郵便配達事情などの情報交換の場では、長崎の斜面地配達を話した時等、驚かれる事が多々あります。例えばバイクを停めて、そこから郵便物の入ったカバンを担いで約1時間の山歩き、バイクに戻ったら移動して、またバイクを置いて30分の山歩きをあと2回などなど、他県の局員からは「ありえん！ありえん！」の声が上がります。

日本各地でその地域特有の大変さは様々あるのじょうけど、とにかく長崎の場合には「階段ですね。局内の同僚とも談笑に出てくる話題ですが、こん

な登り坂と階段が多く、歩行数が一日二万歩、三万歩になると靴にすぐくこたわりが出て来ます。できるだけ軽く、クッションが良く、通気性も良く、耐久性が高い靴を履いて、少しでもその日の足の疲れ、疲労が残らないようにするために、斜面地徒歩配達の我々にとって疲れな履き物は最重要項目です。しかし全ての条件をクリアする靴を見つけても、やはり値段がとんでもなく高いものです。かと言って安いジョギングシューズを買っても、クッションが硬かったりすぐへたったりで交換時期が早まり、結局費用もかさみます。個人差、配達地域にもよりますが、早い人では約三カ月で履き潰します。他県の局員からはちよつと考えにくい事です。



それと、これからの時期の熱中症対策と水分の問題です。

一日通してバイク打ちの配達と、歩きの多い地域の配達とでは異なる水分の量が大幅に違います。

次は、今さら言うまでも無いですが、主な熱中症の症状と対策です。

めまいや立ちくらみ、顔がほてるなどの症状。

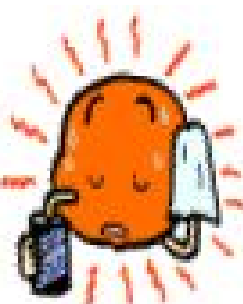
一時的に意識が遠のいたり、腹痛などの症状が出る場合もあります。



「こむら返り」と呼ばれる、手足の筋肉がつかえるなどの症状。筋肉がピクピクとけいれんしたり、硬くなることもあります。

体がぐったりし、力が入らない。吐き気やおう吐、頭痛などを伴う場合もあります。

拭いても拭いても汗がでる、もしくはまったく汗をかいていないなど、汗の掻きかたに異常がある場合にも、熱中症にかかっている危険性があります。



対策

熱中症が疑われるときは、ただ水分を補給するのではなく、塩分も一緒に補給することが重要です。自分で手軽に作れる食塩水(目安として、1ℓの水に対して1～2gの食塩を加える)もよいでしょう。

さらに、長時間の歩行配達などで失われた糖分を補い、エネルギーを補給するために砂糖などを加えると、水分や塩分の吸収が良くなる上に、疲労回復にもつながるのでより効果的です。

手早く塩分・糖分を一緒に補給できるスポーツドリンクなどによる水分補給もおすすめです。ただし、カフェインの入った飲み物は利尿作用が強くなるので避けましょう。

…ということで、ただ水をガブ飲みすれば良いということでは無く、スポーツドリンクでの補給など効果的な水分補給が大切です。

これらの事から、長崎など斜面地を歩きで配達する



場合、靴代、飲み物代、その他にも着替え靴下などなど消耗品は、他県の社員より明らかに費用がかさむのではないのでしょうか。

郵便局の期間雇用社員の賃金は、各県の最低賃金により決定されるため地域格差が生じ、長崎の賃金は、全国的にみて最低ランクです。

特に期間雇用社員で、まだスキルが低いなど低所得の状態では、靴代・飲み物代に多くのお金を使えないのが現状です。各者それぞれ工夫して節約し、努力もしておりますが、やって行けなければ他の仕事を探さなければなりません。

このままでは離職率も上がる可能性があります。年数の浅い社員だけでなく、スキルの高いベテラン社員も流出し、職場のレベル・郵便品質が上がらない原因のひとつともなります。

職場環境の改善とともに、期間雇用社員に対しても、各局独自の施策を含めた待遇改善を望みます。

